

第1回 十和田湖1000年会議

これまでの振り返りと今後の取り組み

令和5年10月19日
環境省

十和田湖に関連するこれまでの主な議論

- 2008 (H20) 年 休屋集団施設地区再整備基本計画
- 2014 (H26) 年 十和田湖観光再生行動計画
- 2016 (H28) 年 休屋休平地区持続可能性調査
休屋集団施設地区園地再整備設計
満喫プロジェクト・ステップアッププログラム2020
- 2017 (H29) 年 青森県観光戦略
- 2018 (H30) 年 休屋集団施設地区北部再整備基本計画策定
- 2019 (R01) 年 休屋集団施設地区北駐車場等再整備実施設計
- 2021 (R03) 年 満喫プロジェクト・ステップアッププログラム2025
休屋集団施設地区廃屋跡地利活用計画検討等

十和田湖活性化
対策会議

・
十和田湖観光
推進会議

満喫プロ
ジェクト
地域協議会

湖畔地域づ
くり懇談会

十和田八幡平国立公園満喫プロジェクト ステップアッププログラム2025 概要

コンセプト (テーマ)

みちのくの脊梁～原生林が彩る静謐の湖水、息づく火山と奥山の湯治場

基本方針

- ・ 上質な滞在環境の創出
- ・ 持続可能な観光地づくりのための冬季利用の促進
- ・ 多彩な登山道を活用した歩いて楽しむ利用の推進

目標

震災復興や新型コロナウイルス感染症拡大前への回復

- ・ 国立公園利用者数約**600万人**
- ・ 訪日外国人利用者数約**3.4万人**
- ・ 延べ宿泊者数、旅行消費額、滞在日数、リピート率の回復
- ・ 冬季観光コンテンツの充実
- ・ 満足度のさらなる向上



重点的な 取組

国内誘客強化

- ・ まずは県内や隣県を中心に
- ・ コロナ禍の状況を踏まえて段階的にプロモーションを展開

ワーケーション等の 推進

- ・ 豊かな自然環境を活用した快適・安全なワーケーションの環境整備
- ・ 国民保養温泉地における温泉療養の活用



キャパシティー コントロール推進

- ・ 紅葉期や自然現象鑑賞時の渋滞対策や混雑緩和
- ・ 事前予約制や環境協力金の徴収、通行車両抑制の強化を検討



上質な滞在環境の創出

- ・ 廃屋対策の加速化による景観回復及び跡地の民間活用、宿泊体験を含めた上質な滞在プランの提案

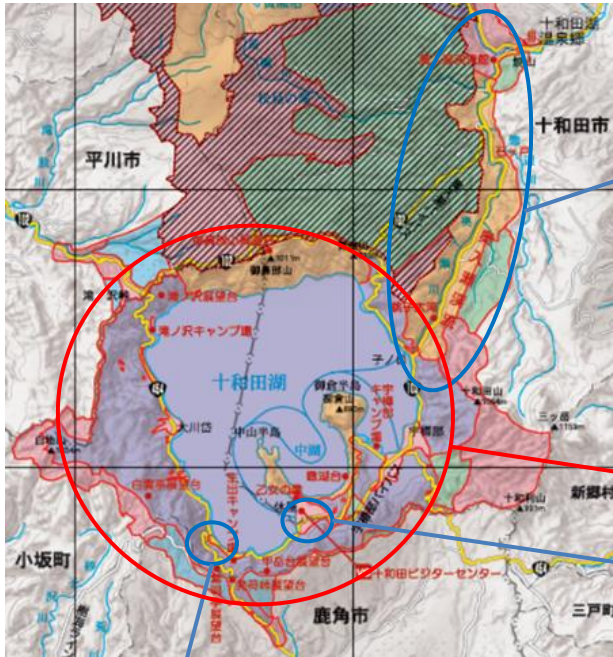
冬季利用の促進

- ・ 氷瀑ツアーなどの冬季観光コンテンツの充実

環境配慮型受入れ環境

- ・ 2050カーボンニュートラルに向けた各施設等における省エネ、脱炭素、脱プラへの配慮

十和田湖及び周辺地域の関連プロジェクト



2018-奥入瀬ビジョン
2023-奥入瀬十和田利活用協議会



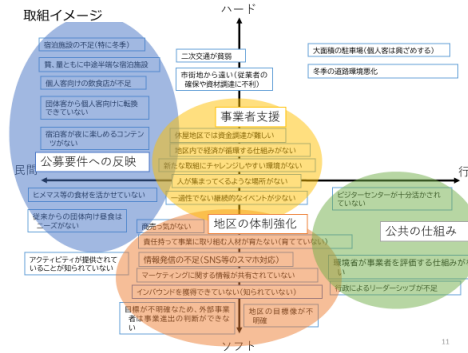
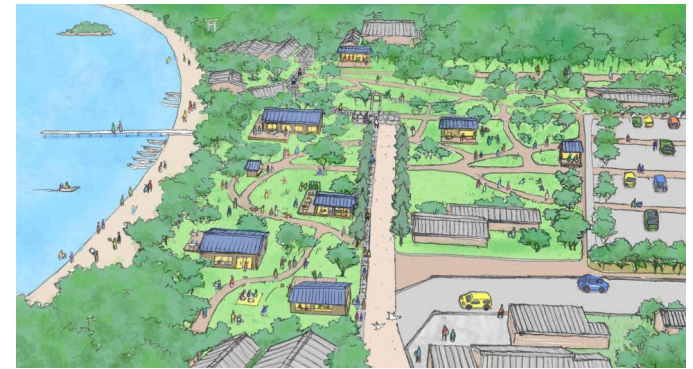
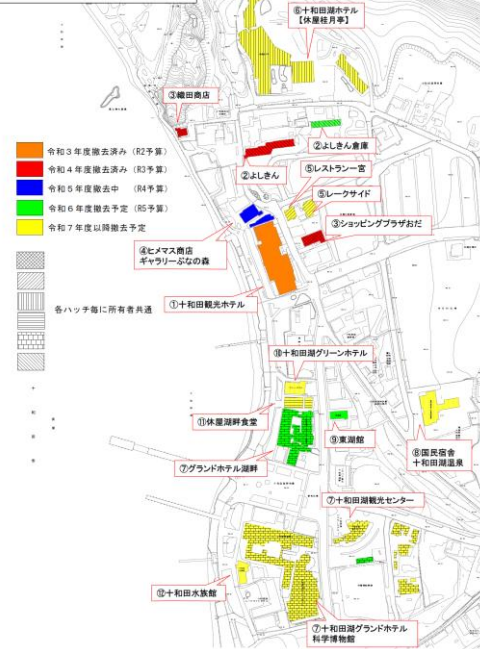
2023-国立公園滞在体験魅力向上先端モデル事業

2016-休屋集団施設地区廃屋対策(上質化事業)

2020-和井内道の駅事業



休屋全体廃屋一覧



休屋集団施設地区廃屋対策（上質化事業）の進捗

2021～2023年度：合計6棟の廃屋を撤去 → 跡地の利活用が最重要課題



織田売店
(2022年11月撤去)



よしきん
(2022年11月撤去)

えびすや 2棟
(2023年度撤去予定)

十和田観光ホテル
(2021年11月撤去)



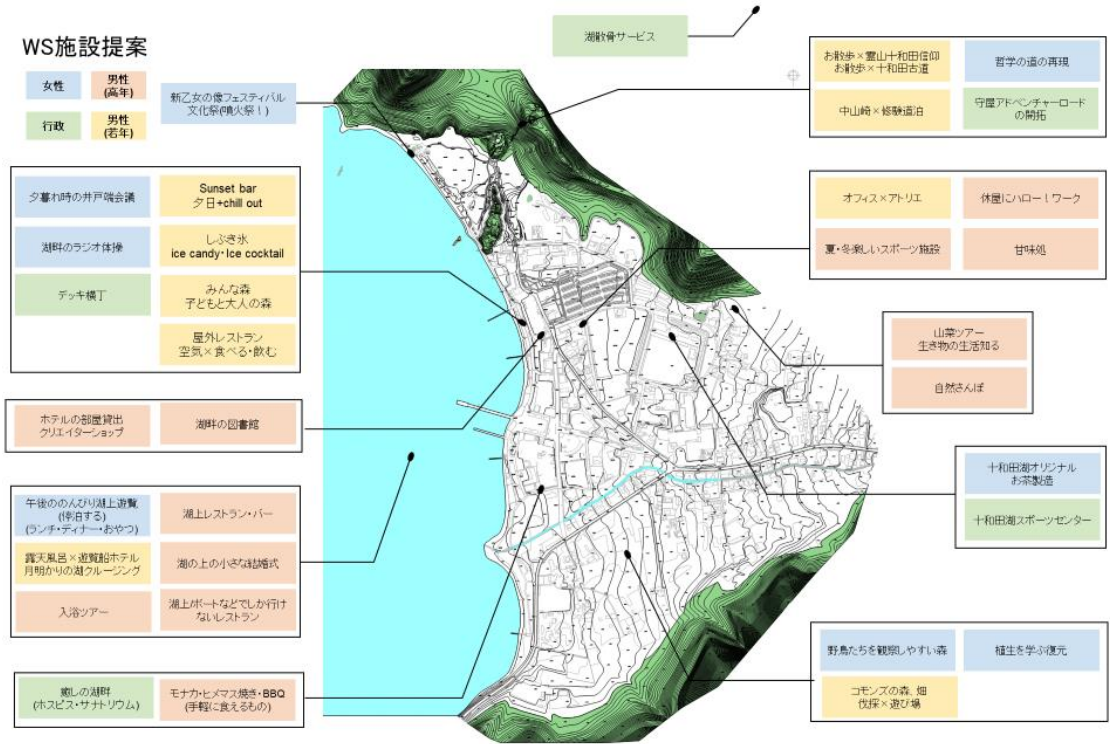
ショッピングプラザおだ
(2022年11月撤去)

廃屋跡地の利活用に関するこれまでの検討状況

2021年度：休屋地区の地域懇談会において、基本理念や活用方針を議論

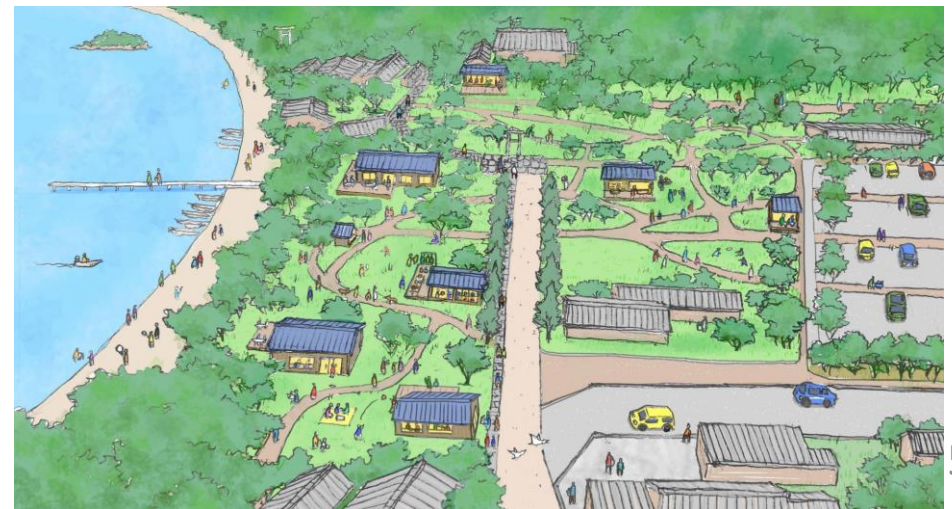
2022/1/28 地域懇談会

テーマ「2050年の子どもたちに見せたい十和田湖」



2022/2/24 地域懇談会

テーマ「北部エリアの跡地等の活用」



廃屋跡地の利活用に関するこれまでの検討状況

2022年度：

- ✓ サウンディングを実施し、跡地利活用の課題・アイデアを聴取
 - ・7事業者参加（金融、旅行、宿泊、メーカー、アクティビティ関係等）
- ✓ サウンディング結果を踏まえ、地域関係者との意見交換会を開催
 - ・地域としてのビジョン、地域経営の体制構築が重要であることを共有

【対話内容】

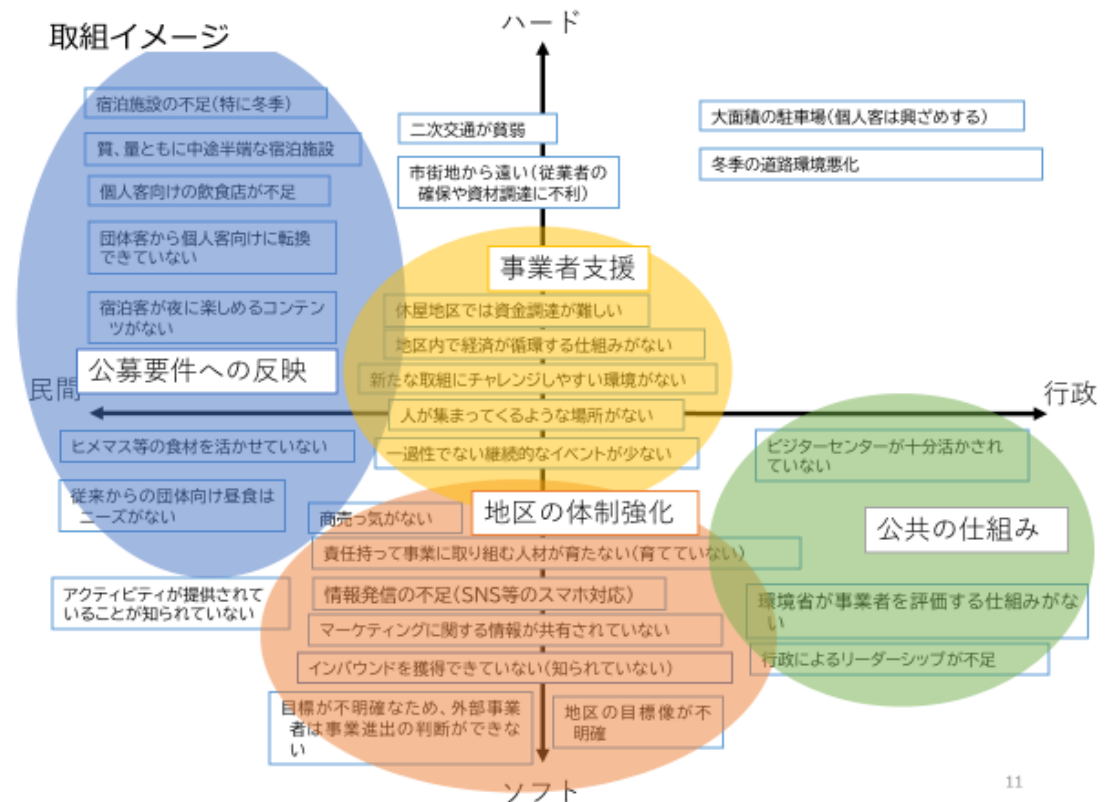
- 事業の内容や施設に関するアイデア
- 事業化に向けた課題、行政への期待 等

【参加者】

- 7事業者（金融、旅行、宿泊、メーカー、アクティビティ関係等）
- ※十和田市商工観光課職員も同席

【結果のフィードバック】

- 2023年2月～3月に十和田市とともに地域関係者との意見交換会を開催

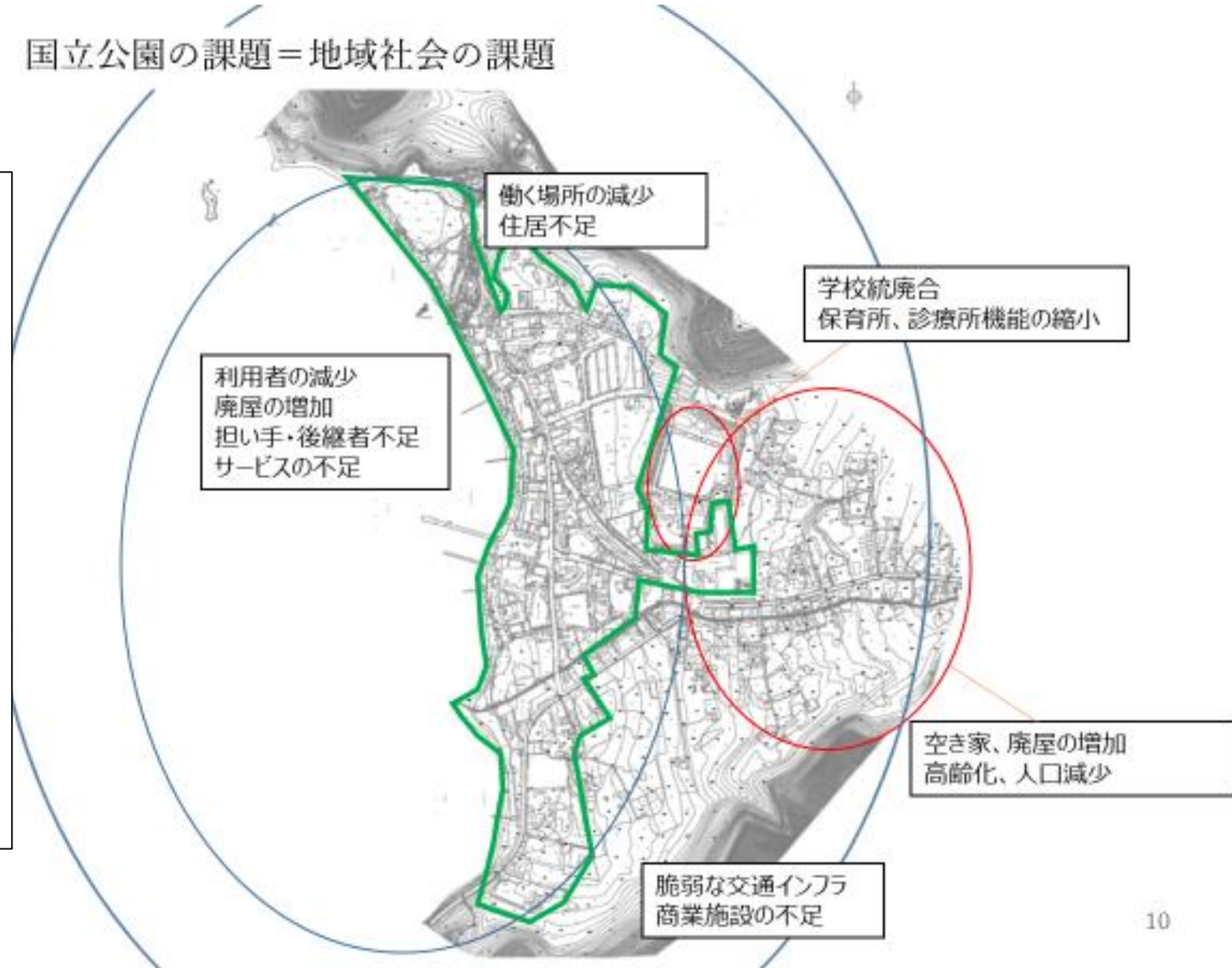


廃屋跡地の利活用に関するこれまでの検討状況

国立公園の課題 = 地域社会の課題

2021～2022年度の検討 で出てきた課題

- ✓ 地域社会としての十和田湖のビジョンづくり
- ✓ 国立公園・観光地としての基本構想づくり
- ✓ 拠点エリアの空間計画 + 民間資本の誘致も含めた再整備の検討
- ✓ 地域社会としての経営の観点からの地域内の体制づくり、地域外との連携強化

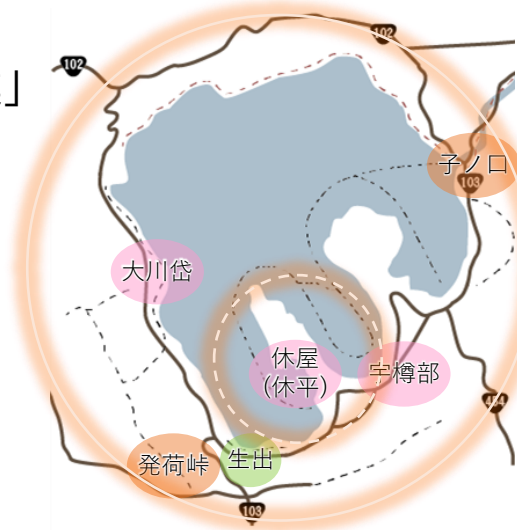


今年度の取組目標と検討体制

2023年度 国立公園の高付加価値化に向けた基本構想検討

✓ 「十和田湖地域」としての基本構想の策定

- ・国立公園における滞在体験の魅力向上先端モデル事業」の候補地に採択されたことを踏まえ、これまでの議論を踏まえつつ検討
- ・十和田湖一体での共通の方向性をとりまとめ、今後の土地利用・跡地活用等の指針とする



休屋での議論を
大川岱・宇樽部を含めた
十和田湖全体での
議論に拡充

✓ 十和田湖地域全体での基本構想を議論する場の設置

- ・従来の意見交換のメンバーに3地区住民等、新たな構成員を追加

1000年会議

首長・関係機関の代表

幹事会

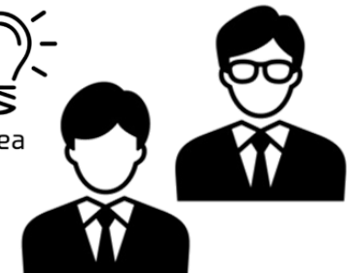
1000年会議出席機関
担当者

地域ワーキンググループ（3地区）

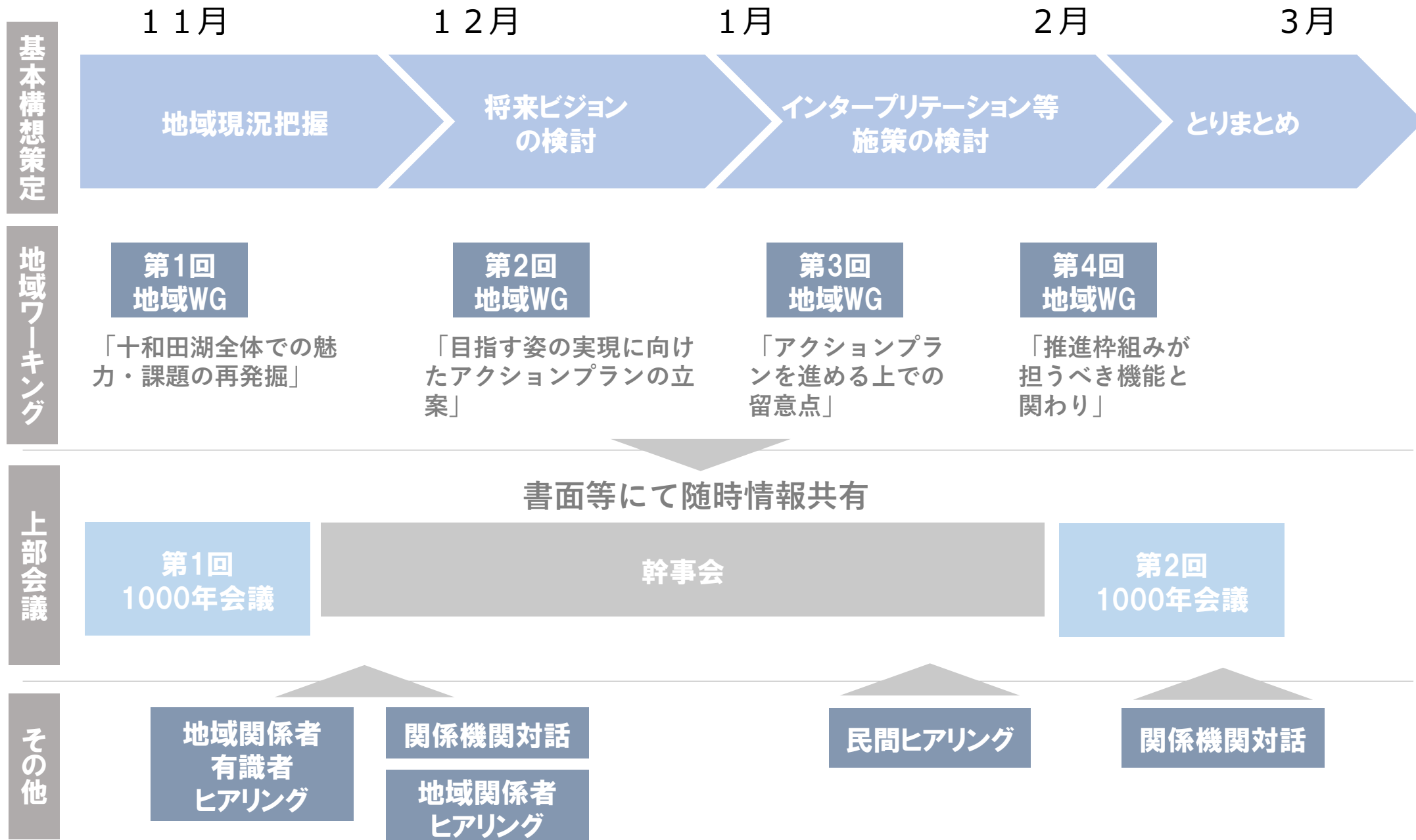
休屋・大川岱・宇樽部地域のコアメンバー

✓ 民間事業の参入スキームの検討と実現に向けた課題整理

- ・基本構想に対する民間発案の盛り込み
+ サウンディングによる実現可能性検討



検討スケジュール



利用の高付加価値化に向けた基本構想 目次構成（素案）

1. 基本条件等の整理

(1) 構想の目的 / (2) 対象地域 / (3) 基本構想の位置付け / (4) 構想期間

2. 地域の現状整理

(1) 地形・歴史・文化 / (2) 十和田湖地区を取り巻く環境の変化 / (3) 人口
(4) 土地利用状況 / (5) 地域の資源・魅力 / (6) 利用実態（入込者数の推移）
(7) 主な関係団体 / (8) 主な施設の管理状況

3. 上位関連計画・法令等の整理

(1) 上位計画 / (2) 関連計画 / (3) 関係法令等

4. 高付加価値化に向けた課題分析

(1) 人口に関する課題（地域の担い手不足） / (2) 土地利用に関する課題
(3) 地域資源の活用に関する課題 / (4) 受入・誘致に関する課題
(5) 高付加価値化に関する課題

5. 将来像の設定

(1) 基本理念・将来像（コンセプト） / (2) 利用の高付加価値化に向けたビジョン

6. ゾーニング設定

(1) ゾーニングの考え方 / (2) ゾーニング設定

7. 取組の方向性

(1) 地域全体における取組の方向性（利用拠点設定、重点施策、個別スケジュール等）
(2) 各ゾーンにおける取組の方向性
①休屋・休平 / ②宇樽部 / ③子ノ口 / ④生出 / ⑤大川岱 / ⑥発荷峠 / ⑦北岸
(3) ゾーン間連携に向けた方向性 / (4) IP全体計画
(5) 国立公園ならではの宿泊体験提供の方向性

8. 推進体制・スケジュール検討

(1) 推進体制（役割分担） / (2) ロードマップ（全体スケジュール）

ヒアリング
既存資料等の整理

第1回地域WG【十和田湖全体での魅力・課題の再発掘】
希望と不安を語り合い、地域の課題と目指す姿を議論

第2回地域WG【目指す姿の実現に向けたアクションプランの立案】
目指す姿を叶えるためのアクションプランを議論

第3回地域WG【アクションプランを進める上での留意点】
IPでどう感じてほしいのか等、留意すべき事項を議論

第4回地域WG【推進枠組みが担うべき機能と関わり方】
計画を実行する組織としてどんな組織・機能が必要か、自分たちにできること等を議論

今後の会議開催予定

